

(第3種郵便物認可)

「トヨタ」の風

大橋鉄工秋田との連携

▷1◁

トヨタ自動車東日本(本社 宮城県大衡村)が2020年12月に静岡県の工場を閉鎖し、車両生産を東北に集約するまで1年半となった。県内ではトヨタグループと取引のある自動車部品製造の大橋鉄工秋田(横手市)を中心に、複数の企業が連携してトヨタ東日本に部品を納入する計画がある。同社の調達活動の姿勢や本県企業との取引の現状は、「トヨタ」の風が吹き始めた今、本県の自動車産業の可能性を探った。

トヨタ自動車東日本(本社 宮城県大衡村)が2020年12月に静岡県の工場を閉鎖し、車両生産を東北に集約するまで1年半となった。県内ではトヨタグループと取引のある自動車部品製造の大橋鉄工秋田(横手市)を中心に、複数の企業が連携してトヨタ東日本に部品を納入する計画がある。同社の調達活動の姿勢や本県企業との取引の現状は、「トヨタ」の風が吹き始めた今、本県の自動車産業の可能性を探った。

場では「シエンタ」「アクア」「ヴィッツ」「ジャパンタクシー」など計10車種、年間約50万台の小型車を生産。宮城大和工場(宮城県大和町)ではエンジンやブレーキシステムなどの部品を製造している。同社は、東日本大震災翌年の12年7月に当時の関東自動車工業、セントラル自動車、トヨタ自動車東北の3社が経営している。もともと東宮士に

東北集約、参入の好機

多くのロボットによって自動化されたライン。ルーフやボンネットなど自動車1台当たり4千カ所の溶接が行われ、次々に車体の骨格が形づくられる。

トヨタ自動車東日本(本社 宮城県大衡村)が2020年12月に静岡県の工場を閉鎖し、車両生産を東北に集約するまで1年半となった。県内ではトヨタグループと取引のある自動車部品製造の大橋鉄工秋田(横手市)を中心に、複数の企業が連携してトヨタ東日本に部品を納入する計画がある。同社の調達活動の姿勢や本県企業との取引の現状は、「トヨタ」の風が吹き始めた今、本県の自動車産業の可能性を探った。

多くのロボットによって自動化されたライン。ルーフやボンネットなど自動車1台当たり4千カ所の溶接が行われ、次々に車体の骨格が形づくられる。トヨタグループの国内第3の拠点と位置付けられている。東北に自動車の生産基盤を構築し、関連産業の集積や人材の育成を進めることと復興の一助になるという。設立以来、



小型車を生産する宮城大衡工場。数千点もの部品が組み付けられる

車面の部品や設備、資材の調達が東北で拡大してきた。術力、製品技術力のある取引先を探している」と強調。本県企業にも幅広い分野で積極的な技術提案を求めている。秋田。同社に呼応した動きが

(木村織音)